

第1回 障害者自立支援協議会（会議録）

1 日 時

令和4年（2022年）5月26日（木）13:30～16:10

2 場 所

障害福祉センターひまわり 会議室

3 案 件

1. 各連絡会からの報告
2. 各部会からの報告
 - (1) 地域課題検討部会
 - (2) 地域包括ケアシステム推進部会
3. コロナ禍におけるサービス継続、課題検討のための協議について
4. 通学支援プロジェクトチームについて
5. その他

4 出席者（順不同）

(1) 委 員

- 会 長 上田 哲郎（少路障害者相談支援センター）
副会長 謝 世業（柴原障害者相談支援センター）
委 員 郡 奈美（豊中市障害児通所支援事業者連絡会）
委 員 井上 康（えーぜっと）
委 員 中島 正恵（多機能型事業所みらい）
委 員 小西 文明（豊中精神障害者当事者会 HOTTO）
委 員 鍋島 康秀（ピープルウォーク）
委 員 須山 久子（豊中市身体不自由児者父母の会）

(2) 事務局

- 杉本 博一（中央障害者相談支援センター）
藤原 靖浩（庄内障害者相談支援センター）
河本 真樹（障害福祉課 障害福祉センターひまわり 相談支援擁護係長）
中田 安紀（障害福祉課 障害福祉センターひまわり 相談支援擁護係）
岩崎 剛（障害福祉課 障害福祉センターひまわり 相談支援擁護係）
橋爪 千恵（こども相談課 発達支援係）

(3) 傍聴者

2人

(4) 欠席者

委員 松田 勝紀 (豊中市障害児者日中活動事業者連絡会)

委員 星屋 好武 (豊中市手をつなぐ育成会)

委員 片山 栄子 (豊中市障害相談支援ネットワークえん)

委員 芳賀 大輔 (豊中市障労支援連絡会) 害者就

委員 水上 さゆり (豊中市障害者グループホーム事業者連絡会)

委員 渡邊 亮 (豊中市障害者居宅介護・移動支援事業者連絡会)

—開 会—

事務局 （資料確認、欠席者報告、傍聴報告）

会 長 （開会の挨拶）

こんにちは。引き続き会長をやらせていただくことになりました。よろしくお願
いします。日日新聞で豊中の障害者相談支援センターのことが載っていましたね。
いいことかなと思っています。福祉事業はどんどんよくなってありがたいことと
思います。今日もよろしくお願ひします。

委 員 （出席者自己紹介）

案件 1. 各連絡会からの報告

事務局 <居宅介護・移動支援事業者連絡会>

今年は役員会・全体会は開けていないが、コロナ禍におけるサービスの継続のた
めの検討会議に毎回会長と副会長は出席いただいている。6月に打ち合わせをし
て7月に全体会ができたかと考えています。

事務局 <グループホーム事業者連絡会>

昨年度、比較的对面で実施できている。今年も対面で役員会・全体会を実施しま
した。全体会は5月10日（火）に総会を実施しまして、事業報告、今年度の事業計
画の承認を受け、役員改選で今年も引き続き自立支援協議会で委員になっていた
だく会長が引き続き会長の任を今年度もされることとなっています。事業計画の主
だったところは、全体会が年6回、毎年定例であるが実施します。BCP（事業継続
計画）の研修会を実施したい。昨年度、コロナ禍ではあったが12月にパネル展を啓
発のために実施したが、今度は市役所ではなく千里コラボで実施したい。6月22日
に豊中市と社会福祉事業団で共催する地域移行のイベントに会長がパネリストとし
て出席する。

事務局 <障害者日中活動事業者連絡会>

なかなか開催ができていないが、居宅連絡会と同じようにコロナ禍の協議の場
に会長と役員1名が引き続き出席して意見をいただいている。会長は今日参加できな
かったが、明日事務局と打ち合わせをして、対面で日中事業者連絡会を6月か7月
に開催できるよう準備をしていきたいと考えている。

事務局 <就労支援事業者連絡会>

5月12日に連絡会を開催しました。対面で昨年度事業報告、今年度の事業計画の承認を受け役員の改選、役員は全員が再選され、こちらに出席されている委員が引き続き会長をされます。事業計画の主だったところは、毎年実施していることではあるが、就労系福祉サービスのスタッフ向けの研修会、企業を呼んでの講演会、企業に訪問しての見学会、あとハローワークから就労状況について報告を受ける場や福祉指導監査課から実地指導の内容を今年度末に報告を受け留意事項についての話をする。合わせて、他の事業者連絡会でも是非していただけたらと思っているが、今年度から事業所ごとの障害者虐待の研修が義務化せれるに伴い、障害者虐待防止についての研修会を必ず1回やりましょうと就労事業者連絡会では事業計画を立てている。

委員 <障害児通所支援事業者連絡会>

任意での加盟なので今のところ70近い事業者のうち42,3くらいが加盟しています。4月19日に33事業所の81名と市役所から13名の計94名が集まり、総会と研修会を行いました。京都のNPO法人福祉広場の理事長に来ていただいた。立命館大学の非常勤講師もされています。保護者の支援とこどもについてお話しいただいた。相談支援事業所からも1名参加がありました。次回は9月15日に去年に引き続いて愛着に関して(別の)先生に洪範をしていただこうと思っています。

部会長 <障害相談支援ネットワークえん>

今年度に入って旧役員で4月20日と5月16日にそれぞれ事務局会議を開いている。そこでは、第1回の全体会議に向けて、来月6月に開催予定となっており、役員の改選と今年度の活動計画を承認いただくことを中心に準備をしている。テーマとして挙がっているのは、相談員に毎年度末に困りごとをグループワークで吸い上げてテーマを決めているが、毎回出てくるのは相談員がどこまでするのがいいのかと相談員の視点で出てくる。障害者支援はサービスであるが、サービスにない部分で常に相談員が動く状況。どこまでやるべきなのかは1人のマンパワーでは厳しい部分がある。ケース数がたくさんあることを鑑みるとそういう声があがることはリアリティがあると感じている。そこに対して今年度は、えんとして手立てはないかをテーマにしていく話が出ている。

委員 通所支援連絡会で。簡単にお話の内容と、できれば個人的でいいので簡単に感想があればお聞きしたい。

委員 (委員は当日休んでおり参加者が傍聴席にいたため代理で説明)

先生のお話ですが、例えばおもちゃを独り占めするお子さんがいて、満足するほど独り占めしてという遊びができていないから、おもちゃを独り占めしてしまう

ことがあり、それに対して一つ手前の発達段階でいうと一つ手前の階層性のことについてアプローチをしてみてもどうかということをお教えいただいた。尚且つ、独り占めをしたがるお子さんに寄っていくお子さんもいる。お子さん同士がトラブルになるが、寄っていくお子さんにももうちょっと焦点を当てて関わってみたらということをお教えいただいた。支援する私たち自身も豊かに生活を送ることで、より豊かな支援ができるのではないのでしょうかということをお教えいただいた。

委員 (その次の) 和歌山大学 米澤先生の話はいつ頃で、部会や連絡会が違う場合は？

委員 今回もそうだが、事務局からは直接全相談事業所に広報してくださいと毎回お願いしている。どなたでも入ってもらえるようにしている。今回は9月15日に先生をお願いしているが、事務局から事業所に広報していただければ。毎回ご連絡しますので参加ください。

事務局 情報提供をします。あと、1点補足。近日中に開催通知を送りますが、感染症対策研修を今年度6月実施します。市と介護保険事業者連絡会と直接支援をされている居宅介護、日中活動、グループホームのそれぞれの事業者連絡会と共催とさせていただいているので参加を。人数が多く対面でできないためZoomです。QRコードを読んでいただいて申込みいただきます。今日、明日送ります。

案件2. 各部会からの報告

(1) 地域課題検討部会

部会長 (【資料1】を用いて説明)

委員 当事者の声を聴くことについて、当事者の数が多いのでできるだけ多くの人に聞いて平均化することをしてほしい。ニーズが違うので。

委員 アンケートを取られることについて、一人ひとり多様性があると思う。それを制度にしようとするときある程度束ねる必要があるが、できるだけ柔軟性を持たせて一人ひとりのニーズに合わせて対応できるような制度作りを。細かいことでできないとか使い勝手が悪い制度にしないほしい。

部会長 非常に大事な点。アンケートは第6期に仕上げた案を出そうと活動していたが、意見を聞くところをどうしようと部会では意見が出て時間を要し第7期に渡っている。何を聞くか、誰に聞くか、非常に幅広く、強度行動障害の方々、精神障害

のある方々を対象とするところも意見がいろいろあった。精神障害の方の生活事例を追いかけて、これから質問を考えていく。強度行動障害のある方の親御さんや支援者に話を聞き、アンケート作りをして聞いている状況。昨年度、本番のアンケートを取る事前アンケートを取らせていただいた。見えてきたのは、強度行動障害のある方が日常生活を営んでいるときに不安定になり、自傷他害に及ぶ。本人もしんどい状況になっているが、コミュニケーションとして相手にしんどさを伝えられず、伝える方法が自傷他害に繋がっている。地域生活をしていく上で大きなポイントになる。もう一つは自立に向けた生活、地域で生活される方は親御さんなしでは生活できていない状況があるが、ずっと一緒に生活できるかというそういうわけではなく、その人が自分でどう生きていくのかが非常に大きなテーマであることの2つ昨年度見えてきた。このテーマにおいてアンケートを作ろうとなる。今まとめているが、緊急時に当事者が自傷他害など不安定になり、家族や支援者が見ている考え方と本人目線に立った時に状況の捉え方で差が出てきていることがアンケートで分かってきた。

委員 精神の方は重い人には重い人の悩み、軽い人には軽い人の悩み、状態が悪いときは悪い時の悩み、安定しているときには不安が残るなどある。そういう意味で、人数は限られるが多くのことから聞き取りを行ってほしい。

委員 一人ひとり関係性によって、利用者と支援者のくくりでは図れないが、ひとくりにしようとするのがかなりハードルは高いことと思う。制度ではある程度尺度は必要なので、柔軟性を持った制度や基準を作ってほしいと感じる。

委員 3つあります。強度行動障害の方は児童は入っていないのでしょうか？強度行動障害のある方と精神のある方のアンケートは第7期の案について、前回の調査実施のところが今のアンケートの人数だとすると全体の人数から何パーセントの方から回収できたのか？他自治体の先行事例を知ること、今のところどこから聞こうとしているか、選考はどういう状態で行われているか？

部会長 児童については第6期は児童も入れて取り組んでいたが、ボリュームがあり見直して、第7期は児童を抜いた。次期以降で仕切り直してしっかりやっているという話になった。アンケートは、第6期は今やっている基を作るために事前に行ったもの。これは、強度行動障害者の方のみ。年代別、性別で6ケースに絞って仮に作成したアンケートを実施して、いろいろ修正点が出たため修正して今期に入ってアンケートを行っている。部会員のマンパワーから、対象者を豊中市内の30ケースに絞り、どれだけ回収できるかが大きなポイント。今行っているところ。

他自治体について、厚労省がホームページにあげている 5, 60 以上あるうち、当部会で 15, 6 に自治体をピックアップして勉強会を行った。豊中市人口が 40 万人で同規模の市町村や人口比が半分以下の小さな自治体、政令市クラスの大規模の街がどういうことをしているかを調べた。それらを踏まえて、第 7 期は全体の委員でどんな取り組みをしているか知ってもらうことが大事と考えている。豊中に置き換えてどんなモデルが考えられるか委員からも意見を出す場を作ろうと考えている。今年度と来年度でそのような場を設定し、先生にも来ていただける形をとれればと話を進めている。

多様な生活を当事者の方が営んでおられる。柔軟なモデルが非常に大事。先行事例を知る勉強会でも委員の方から意見を頂くこともお願いしたい。また、モデル案を出したときに意見を頂けるよう設定をしていきたいと考えている。

事務局 概ねの方向性は、ご指摘いただいた、ご質問いただいた部分を踏まえて引き続き取り組みを進めていただくことかと思えます。

(2) 地域包括ケアシステム推進部会

部会長 (【資料 2】を用いて説明)

委員 どういう工夫をすれば、地域包括ケアシステムがクリアになりわかりやすくなるかは課題と思っている。端的に言うと福祉関係者は「地域」「連携」はキーワード。保健や医療分野では福祉分野と同じ価値観で共有されていないので先は長いと感じる。

部会長 何かを取り組めば、一発で地域包括ケアシステムが認知されてその通りに歯車が動いていくとは思っていない。そこの下地作りをきっちり我々の立場で他の療育に浸透させていけるよう少しずつと思っている。

事務局 取り組みについてご意見いただいて回答いただいたことに沿って進めていくことになると思います。

案件 3. その他

事務局 こども未来部こども相談課から計画策定にあたって事務局が来ているため案件前後して進めます。

① 第六次障害者長期計画及び第 7 期障害福祉計画・第 3 期障害児福祉計画策定に向けた市民アンケート調査の概要について 【資料 5】

事務局 ①についてアンケート調査をさせていただく。事前に送らせていただいていたものについてご意見いただければ。8月末が締め切りとなっている。

委員 アンケートの数字で③の18歳未満の障害のある市民で262人の回収があったが、令和2年度の豊中市障害児福祉計画の18歳未満の人数が1864人で割ると16%となる。困りごと等自立支援協議会でなくどのように吸い上げているのか？無作為抽出と記載しているが手帳の区分があるがどのように抽出しているのか？

事務局 回答できない部分は後日か担当者からさせていただきます。
数字の16%について、層が極端に何かに偏っていなければ、ニーズは得られていると認識している。
無作為抽出は偏っていないと認識しているが根拠は示せないため持ち帰ります。

事務局 こども未来部は、計画のアンケートを送る前には審議会が間に合わないため、審議会にはアンケート結果の情報共有をする。こども相談課で作成しているアンケート調査票は⑥になります。こういう項目等ご意見ありましたらいただけたらと思います。
本日締め切りになっている分は施策推進協議会に提案する内容であるが、施策推進協議会に提案する内容自体が決定事項出ないので、ご意見いただければまとめて上げたいが、受け付けないものではない。

委員 当事者の声が反映できるアンケートを作っていただきたい。
⑥の学校等教育現場でのことについての質問が問28と29だけ。受給者証のみを持っている子供達は手帳がないので、なかなか困りごとがあがってこなく、学校と当事者間で困っているということがある。学校側も当事者にアンケートを取ることがないので、そういうところの文言ももう少し増やしてもらえたらと感じた。

事務局 もう少し保護者の方からの意見を吸い上げやすい形で質問を考えます。

案件4. コロナ禍におけるサービス継続、課題検討のための協議の場について

事務局 (【資料3】を用いて説明)

委員 プロジェクトを実施していることは情報共有としてはいい。今後もコロナは続いていくが、陽性者になった方に対して、グループホームや入所施設で入院が簡単にできないことは一つの課題である。

プロジェクトをさらに進展させるには保健部局担当者が入るべきと考える。自立支援協議会として積極的に言っていく必要があると感じる。

事務局 取り組みを 2 年間継続できたのは、事業者の御協力があったからこそ。一時避難所を提案いただいて作ったり、工賃を向上させるための事業として補助金の創設など。保健部局との連携は、集団接種に関して主催は福祉部でなく保健所。集団接種会場として作った会場の 1 つに知的障害をお持ちの方を対象という位置づけでさせていただいた。まったく連携していないわけではないが見えにくかった部分はあったのかもしれない。

委員 知的障害の方は入院治療になると不安定になる。入院できるようになる部分と合わせて医療機関の方々のご理解、障害者の状況を把握していくことを行政機関からも届けてほしい。

事務局 グループホーム等で陽性者がしばらく入院できなかった事実は、課題認識を持ちたい。

案件 5. 通学支援プロジェクトチームについて

事務局 (【資料 4】を用いて説明)

委員 児童生徒課と障害福祉課が入っているが、放デイに通っていて支援学校に通っている児童の困りごとはどこから上がってくるのか？
通学支援と居宅介護で送り出ししている家庭の違いを教えてください。

事務局 学校中心ではあるが委託相談(基幹相談)になるので、地域に周知をして地域の相談支援事業所から困りごとがあがってくる仕組みを構築した。また、支援学校と連携して情報が入りやすい状況を作ることは次の課題になる。
居宅介護と移動支援について、通学支援を受けたいと新たに申込みいただいた方は紹介している。以前から居宅介護を利用されている方は現状のかたちを踏襲している。

委員 セルフプランと相談支援にかかっている方を比べると、セルフプランが 81,3%。相談支援にかかっている 18,7%からしか困りごとがあがらない？

事務局 今回、基幹センターを 7 ヶ所にしたが、セルフでも計画相談どちらでも相談し

ていただけるので、繋がりにくい実情はあると思うが、相談していただける体制にしている。

副会長 予定より相当延びましたが、皆さんからのご意見、自立支援協議会の運営にあたってのいろんな課題をそれぞれの立場からご意見いただいたことは貴重な内容だったと受け止めています。一方、保健・医療・福祉もまさにそのテーマだったが、やはり医療と密接に関係のある課題もあるだけに、福祉分野だけでこのように絵を描いて投げたボールがどこに飛んでいくのか待つだけでなく、何かを動かすということでの集まりと思うので、今後も市にもこういった状況を受け止めてもらい変わるうねりになればと思う。

会 長 (閉会の挨拶)

いろいろ課題はあると思いますが、決めていくことが大事だと思う。親のニーズと子のニーズは全然違うところを判断していくことは難しい話だが、そこでもっと共通認識を持っていかないといけないところだと思います。最近、事業所が増えていることは非常にありがたい。基幹の研修ですることになると思うが、豊中の事業所の背景について認識してもらえよういろいろ考えています。今後ともよろしくお願いします。

事務局 議事進行で時間を超過してしまい申し訳ありませんでした。次回の全体会議ではもう少し議論するところの焦点を絞れるよう工夫して臨めればと思います。次回もよろしくお願いします。ご多忙の中ありがとうございました。

—閉 会—